



京大広報

号外

2012.4

目次

〈入学式〉

- 学部入学式における総長のことば……………3654
- 大学院入学式における総長のことば……………3656

〈大学の動き〉

- 平成24年度学部入学式……………3658
- 平成24年度大学院入学式……………3659



平成24年度 入学式



入学式

学部入学式における総長のことば

平成24年4月6日

総長 松本 紘

本日、花曇りにかすむ東山を望むこの「みやこめっせ」に参集の3,027名の皆さん、京都大学に入学おめでとうございます。ご来賓の井村裕夫元総長、長尾 真元総長、尾池和夫前総長、列席の副学長、各学部長、部局長、および教職員とともに、皆さんの入学をお祝いしたいと思います。また、皆さんの長く厳しい勉学が見事に実を結びましたことに敬意を表します。そして、これまで皆さんを支えてこられましたご家族や関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

昨年の3月11日に起こった東日本大震災による国難は今なお続いています。国を挙げての復旧や復興は道半ばにも至っていません。被災地から離れた京都においても、長く心を寄せ、被災地の苦難を我がこととし、復旧と復興を積極的に支援し続けていかなければなりません。この時期に大学に入学する皆さんはこのことを常に考えつづけ、自ら行いうる貢献を主体的に行っていくべきと思います。

震災後、地球社会のリーダーとして将来ビジョンを描ける人間がそう多くはなくなりました。例えば、皆さんの多くはこれからまだ50年以上生きていくことになるでしょうが、その半世紀先まで見通せているでしょうか。京都大学に入学の皆さんには、日本のリーダーとして、遠い将来を見通し、未来を創造できる人間になってほしいと思います。将来を見通すためには学術が積み重ねてきたデータの蓄積を咀嚼する能力が必要です。その上に立って、何をすれば、自分が理想とする、あるいは世界が理想としうる社会を維持発展させることができるかを考えなければなりません。その際に、あるべき豊かな未来の姿を構想するためには、確固たる世界観や哲学や志が必要



です。また、私たちが生きている現代社会は高度に分業化された専門家社会です。大学の一つの機能はその専門家を養成することにあります。専門分野に深く切り込んで、既存の知識に何らかの新しいものを付加するという貢献、それが研究の営みです。やがて小さな貢献が集まり、壮麗な学術体系が構築されていきます。これこそが学術を形作ってきたのです。皆さんもその歴史的な営みに、学士課程の仕上げとなる卒業研究等で、ささやかながらも参加していくことになるでしょう。ただし、専門家は専門に専心するあまり、部分に埋没し、全体像を見失う危険があります。その弊に陥らないためにも、自らが専攻する学問分野の基礎と応用にかかる知識や技術を身につけるだけでなく、高校時代に十分に古典などに親しむことができなかつたと思われる皆さんにこそ、大学においてグレートブックスに代表される古典を紐解いてほしいのです。そして、一見関係のないように見える他の幅広い素養や周辺知識を教養として貪欲に吸収し、それをもとに物事の本質を見抜き、多元的に判断する力量を鍛えてほしいと願います。そして、過去に縛られることなく、可能な限り早い段階に自分自身の思想や人生哲学の骨格を形作り、それに肉付けし、4年後には今の自分と違う自分をそこに見いだしてほしいと思います。

併せて、皆さんは時代が要請する国際性を養う必要があります。それは単に外国語ができるということではなく、歴史に学び、自国の文化をしっかりと背景に持ちながら、自分の考えを国際社会で主張できる論理的な思考能力、発言能力、自分の意見を恥ずかしがらずにいえる積極性や自主性を備えることに

ほかなりません。そのためには練習や経験も必要です。ぜひ大学時代に、十分に練られた計画と準備の下、海外留学を経験してほしいと思います。大学として体制を整備し、皆さんの雄飛をできる限り支援したいと思います。

新たに大学生活を始められる皆さんに一つ質問をしたいと思います。皆さんはこれまで絶望したことがあるでしょうか。この唐突な質問には原典があります。評論家亀井勝一郎の『愛の無常について』のなかで、亀井は自分がもし大学の入学の試験官であったなら、必ず尋ねてみたい質問としてこの問いを挙げています。なぜ入学を許され、未知の新たな世界に心躍らせている皆さんにこのようなことを尋ねるのか。それは、皆さんに青春における絶望の意義を考えてもらいたいからです。亀井は次のようにいいます。「解決しがたい問題の、解決しがたい所以が、骨身に徹してわかり、自己の非力さと空しさが痛感されたとき、人は絶望します。」そして、動物や子供は絶望することはできないと述べた後、人間に成りかかっている人間だけが絶望でき、絶望こそが人間として生まれ変わるための陣痛にほかならず、さらに絶望しない青春はどこかにごまかしがあると思わねばならないとさえいっています。かくして、人間判断の基準として絶望を問うことになるわけです。これまでに絶望を経験された皆さんは、絶望までの自己から新たな自己に生まれ変わっています。しかし、安心は禁物です。更なる難問が控えているかもしれませぬ。皆さんはいま、和辻哲郎のいう「人生の最も大きい危機の一つ」である青春を迎えています。そこでは肉体の成長と澁刺とした感受性が皆さんを享楽の世界に誘惑します。そのことが皆さんの前に解決しがたい問題をもたらす原因となることが多いのです。「性急と絶望は、青春の特徴」と喝破した亀井の言葉を深くかみしめてほしいと思います。

京都大学における学びの機会、真理探究の道自ら進む者にあまねく開かれています。しかし、そこには、ときとして、濃密で激しい考え方のやりとりが必要となることもあります。決してあきらめず、

「闊達な対話」と相手の立場、考え方も尊重することを忘れず、あわせて自らも重んじるようこころがけてください。この自らを重んじるという「自重自敬」の考えは明治30年の本学の第1回入学宣誓式に由来します。その心得を説かれた木下廣次初代総長は書としてその言葉を本学に残してくださいました。その書は現在総長応接室を飾っています。また、木下総長は「自重自敬」の心得に続けて、「故に諸君は、既に後見を脱したる者として吾人は、諸君を遇するなり」と述べて、「自立独立」を学生に勧めておられます。私はそれに加え、自らを鍛え自分を恃みと出来るようにする「自鍛自恃」を求めたいと思います。これからご家族や関係者の皆様には大学生活のために一定の扶助をお願いすることにはなりますが、私たち教職員同様、入学生を独立した個人として処遇されることをお願い致します。

現在、京都大学にはおよそ3,000名の教員と2,500名の職員、22,000名の学生がいます。京都大学在学中に出会い、そこで生まれる人間関係は、将来きっと皆さんの人生を豊饒なものにすることでしょう。学業において出会う人のみならず、課外活動やその他の出合いを大切に、生涯の知己、友人を得、多くの人々と考えを交換し、自ら進んで人間関係の綾を織りなしてほしいと思います。我々教職員は、伝統を基礎とし革新と創造の魅力・活力・実力ある京都大学を目指して、大学の教育・研究環境を充実させていきます。本日ご臨席のご家族や関係者の皆様には、引き続き、本学への支援や応援を切にお願い申し上げます。

最後に、司馬遷の史記に「時は得難くして失い易し、時は時なり」という言葉があります。機会は得がたく失いやすいもので、さらに今が絶好の機会であることは見過ごされがちです。皆さんの前にあるこの機会を主体的にとらえ、澁刺と輝く京大生とならんことを祈念し、私の入学式の式辞とさせていただきます。

京都大学への入学、おめでとうございます。

大学院入学式における総長のことば

平成24年4月6日

総長 松本 紘

本日、京都大学大学院に進学される修士課程2,234名、専門職学位課程329名、博士後期課程884名の皆さん、おめでとうございます。ご来賓の長尾 真元総長、列席の副学長、研究科長、学舎長、教育部長、研究所長、および教職員とともに皆さんの進学をお祝いしたいと思います。また、これまで皆さんを支えてこられたご家族や関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

我が国は、昨年3月11日に東日本大震災に見舞われ、この国難からの復旧や復興のさなかにあります。国を挙げての復旧や復興が道半ばにも至っていないこの時期に進学することを皆さんは片時も忘れてはなりません。そして、我々は被災地から離れた京都においても、被災地に長く心を寄せ、その苦難を我がこととし、大学人として、また個人として、復興に協力する決意をここに新たにすべきです。

震災を契機に、今後被災地にどのような手助けをしようか、どういう貢献が大学院生としてできるだろうか、さらには安寧の世界をつくるにはどうしたらいいか、専門を極めることだけでいいのだろうか等、様々に悩み、考え始めていることと思います。災害からの復興にはあらゆる専門知識が必要とされます。すなわち、非常時、復旧時、復興時といった異なる段階において、日本や世界といった異なる場所において、それぞれ緊急性の高い活動を機動的に成し遂げるための広範囲に及ぶ専門知識が必要です。しかし、皆さんは不幸な大災害の全体構造を常に心に置きながらも、まず自分の専門分野を通じた貢献を考えてください。さらに、皆さんが生き抜いてい



かねばならない今後50年のあるべき姿を見通し、地球社会のリーダーのひとりとして活躍できるような研鑽も積んでください。皆さんの多くは自分自身の素材としての価値を十分には認識できていません。私も大学院修士課程に進学したほぼ45年前にはあまり自信が持てず、人生についてはっきりした見通しを持ってはいませんでした。周りの人々も同様であったと思います。しかし、現在多くの友人は日本あるいは世界のリーダーとして活躍をしています。皆さんは確実に社会のリーダーとなる人材です。社会において中心的役割を担い始める十年先をひとまずの目処にリーダーに必要な知識体系を準備しておいてください。さらに、リーダーとして世界で活躍するには語学力、説得力、企画力、発信力、感化力などの人間力も併せ涵養されている必要があります。

さて、皆さんが進学する修士課程では、学士課程で身につけた知識や教養の蓄積の上に、さらに基礎的な知識を補いつつ、研究のために必要な専門知識と技術を身につけるなど、専門家として独り立ちできるような体系的な教育が行われます。専門職学位課程では、高度の専門性を必要とする職業などに従事する人材を育てるために、理論と実務との橋渡しを行う新たな教育課程の中で学修が進められ、国際的に活躍しうる人材の養成が行われます。博士後期課程では、修士課程までに修得した知識や技術を基礎に、自ら研究計画を構想し、独創的な研究を遂行し、

学術誌などにより研究成果を国際的に発信していくよう指導が行われます。これら大学院において、皆さんは専門分野において世界の最先端に躍り出ることを目指してください。その努力は遠からず実を結ぶものと私は確信しています。

これから大学院において、皆さんは研究の真の面白さを体験することになるでしょう。私の体験をお話すると、研究室に入ることがその始まりでした。多くの皆さんは、体育会やクラブを除けば、少人数での共同作業、共同生活をあまり経験してこなかったと思います。大学院で研究室に入ると、否が応でも共同生活を送ることになります。身近にライバルがいて、日々指導教員と密なやりとりができ、これまでとは違った生活を送ることになります。そのうえで、所属する研究室や研究グループが取り組んでいるテーマについてその舞台裏を垣間見ることになります。また、京都大学は物事の根源を尋ねること、すなわち「務本」を志向する大学であり、本質は何であり、それは何故かということが常に議論されます。その探求過程において、知識獲得のために漠然と勉強していた時には気がつかなかったこと、とりわけ自分はいかにわかっていないかということ、一方で自分のみならず、世の中にはこんなにわかっていないことが多いのかということがわかってきます。論語に「これを知るをこれを知ると為し、知らざるを知らずと為せ。是れ知るなり」という言葉があります。要するに、わかったことの認識のみではまだ足りず、わからないことをわからないと正しく認識することによって、真の理解に到達するということです。無知の知ならぬ、不知の知といえましょう。ここまでくれば後は簡単です。「よし、私が、誰も気がついていないこれをやってみよう」とか、「まあ他人がやっているかもしれないけれど、私もそのことについてわかりたい」と独創への船出が自然に行われます。このように研究室における共同生活を通じて、

はじめはおぼつかない足取りだったものが、研究を続けるうちに、「あれ、誰よりも私のほうが良く知っている」ということに気がつき、それが自信に繋がって、研究に邁進する原動力となります。これは私の体験にすぎませんが、皆さんには皆さんの機会が用意されています。これからの大学院での時間を生かし、皆さんのみずみずしい感性で研究の真の面白さを味わい尽くされることを期待しています。

本学には大学院を中心にして1,800名を越える留学生や、海外からの研究者が在籍しています。海外の大学との学生交流協定も数多く締結し、海外での武者修行の多様な機会を提供しています。また、多くの京都大学の研究者が国際舞台で活躍をしています。本学のこの学術資源を有効に活用して、大学院時代に活動の場を世界に拡げて、ぜひ積極的に海外に雄飛してほしいと思います。それは何事にも代え難い有意義なものとなるでしょう。私も初めて海外に出た若い時代の心の高揚を今でも忘れることはありません。

未曾有の大震災に見舞われた日本社会は、広い視野、柔軟な思考、難問を前にひるまない気概を持ったリーダーを必要としています。我が国あるいは人類の未来は我々自らの手で拓かねばなりません。皆さんが、京都大学の大学院生として、さらなる高みを目指し、既成概念にとらわれず、常に「問い」を自らに発しながら、課題解決への道を切り拓いていくと同時に、自鍛自恃の精神で自らの心身を磨いていかれることを願い、私のお祝いのことばといたします。

皆さんの活躍を期待しています。大学院進学、おめでとうございます。

大学の動き

平成24年度学部入学式

4月6日(金)午前9時30分から、京都市勧業館みやこめッセにおいて井村裕夫元総長、長尾 真元総長、尾池和夫前総長をはじめ各理事・副学長、各部署局長等の出席のもとに平成24年度学部入学式が挙行された。

京都大学交響楽団の演奏、合唱団による学歌斉唱

に続き、総長の式辞があり、午前9時56分に終了した。

入学式に引き続き、初年次教育の一環として、総長による講演「京都大学で学ぶということ」が実施された。

今年度の入学者数は次のとおりである。

平成24年度学部入学者数

区 分 学 部	一般入試 (前 期)	外国学校 出身者選抜	外国人留学生 特別選抜	編 入 学	再 入 学	転 入 学	学士入学	合 計
総合人間学部	127 ^人	— ^人	— ^人	— ^人	— ^人	— ^人	— ^人	127 ^人
文 学 部	226	—	2	—	—	—	3	231
教 育 学 部	61	—	—	8	—	—	—	69
法 学 部	331	6	—	10	—	—	—	347
経 済 学 部	240	5	8	18	—	—	—	271
理 学 部	314	—	1	—	—	—	—	315
医 学 部	263	—	—	—	1	—	—	264
薬 学 部	83	—	—	—	—	—	—	83
工 学 部	964	—	32	6	—	—	—	1,002
農 学 部	316	—	2	—	—	—	—	318
合 計	2,925	11	45	42	1	—	3	3,027



(学務部)

平成24年度大学院入学式

4月6日(金)午後2時から、京都市勧業館みやこめっせにおいて長尾 真元総長をはじめ各理事・副学長、各部局長等の出席のもとに平成24年度大学院入学式が挙行された。

京都大学交響楽団の演奏、合唱団による学歌斉唱に続き、総長の式辞があり、午後2時23分に終了した。

今年度の入学者数は、次のとおりである。

平成24年度修士課程入学者数

区分 研究科	入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
文学研究科	83 ^人	3 ^人	9 ^人	- ^人	- ^人	- ^人	95 ^人
教育学研究科	32	1	3	-	-	-	36
法学研究科	10	-	7	-	-	-	17
経済学研究科	36	3	16	-	-	-	55
理学研究科	288	2	1	-	-	-	291
医学研究科	73	1	3	-	-	-	77
薬学研究科	59	2	7	-	-	-	68
工学研究科	690	10	33	-	-	-	733
農学研究科	275	4	13	-	-	-	292
人間・環境学研究科	119	4	17	-	-	-	140
エネルギー科学研究科	124	1	3	-	-	-	128
情報学研究科	164	2	21	-	-	-	187
生命科学研究科	77	-	2	-	-	-	79
地球環境学舎	32	1	3	-	-	-	36
合計	2,062	34	138	-	-	-	2,234

平成24年度修士課程(専門職学位課程)入学者数

区分 研究科	入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他	
法学研究科	170 ^人	- ^人	- ^人	170 ^人
医学研究科	26	-	3	29
公共政策教育部	40	-	1	41
経営管理教育部	54	2	33	89
合計	290	2	37	329

平成24年度博士後期課程入学者数

区分 研究科	進学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		転入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他	
文学研究科	38 ^人	- ^人	4 ^人	8 ^人	2 ^人	3 ^人	- ^人	- ^人	- ^人	- ^人	- ^人	- ^人	55 ^人
教育学研究科	20	-	2	5	-	-	-	-	1	-	-	-	28
法学研究科	6	-	3	4	1	4	-	-	-	-	-	-	18
経済学研究科	14	-	3	19	-	-	-	-	-	-	-	-	36
理学研究科	103	1	1	16	3	3	-	-	-	-	-	-	127
医学研究科	19	-	4	15	1	3	-	-	-	-	-	-	42
薬学研究科	20	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	24
工学研究科	58	1	8	33	4	14	-	-	-	-	-	-	118
農学研究科	40	3	8	13	-	4	-	-	-	-	-	-	68
人間・環境学研究科	44	2	7	13	-	3	1	-	-	-	-	-	70
エネルギー科学研究科	11	2	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	18
情報学研究科	12	2	2	12	4	3	-	-	-	-	-	-	35
生命科学研究科	25	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	29
地球環境学舎	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	3
合計	410	13	43	145	18	40	1	-	1	-	-	-	671

平成24年度博士課程(4年制)入学者数

区分 研究科	入学	外国人留学生		進学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
医学研究科	153人	6人	6人	—人	—人	—人	165人
薬学研究科	10	—	—	—	—	—	10
合計	163	6	6	—	—	—	175

平成24年度一貫制博士課程入学者数

区分 研究科	入学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
アジア・アフリカ 地域研究研究科	23人	2人	—人	3人	1人	—人	29人
合計	23	2	—	3	1	—	29

平成24年度博士課程(3年制)入学者数

区分 研究科	進学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
地球環境学舎	2人	1人	—人	4人	—人	2人	9人
合計	2	1	—	4	—	2	9



(学務部)